

(敷島小) 学校 学校関係者評価書 (前期)

平成27年7月30日 (木)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成27年7月17日 (金) 午後3時30分～4時45分

会場：敷島小学校図書室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之，松土 仁郎

辻 英夫，窪田 敏子，山本 ひとみ

P T A代表：堀端 真 (P T A会長)

武藤 京美 (P T A副会長)

(学校側)

校長 保坂 秀人

教頭 竹野 貢造

教務主任 飯塚 正規

I 学校側から提案された内容

学校側から、6月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標に関して・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

II 協議された主な内容

1 教職員自己評価及び児童アンケートの結果について

- ・ 児童へのアンケート，全質問26項目中 (内2問は具体的な数字で答えるもの)，肯定的な回答が80%を超える項目が20個 (昨年同時期は19個) であり，一般的には良好な様子がうかがえる。ただし，項目によっては，数は少なくとも，否定的な回答をした児童がいることはしっかり押さえておく必要がある。
- ・ 本校の前期の教育活動及び学校運営 (学校経営，学校運営，学習指導，生徒指導，地域との連携，学校の特色等) に，適切に対応しているかについて，教職員は「そう思う」「ややそう思う」と回答している者がほとんどである。これは，敷島小

学校の教職員が学校経営方針を理解するとともに、日頃の教育実践や校務分掌を遂行する中で、学校教育目標の具現化に努めているからであると考える。

- ・全教職員が、学校教育目標具現化に向け、学校経営方針を理解し教育活動を行っている。児童アンケートによれば、「学校が楽しいですか」という設問に「とても楽しい」「楽しい」合わせて95.6%の回答があり、昨年度前期(94.7%)より、わずかではあるがポイント上昇しており、学校生活をさらに肯定的にとらえていることがうかがえる。また、児童の96.1%が「クラス(学年)に仲の良い友だちがたくさんいる」「いる」、92.7%が「授業がとても楽しい」「楽しい」と回答している。ただし、これらの設問に対し、それぞれ4.3%(18人)、3.9%(16人)、7.4%(30人)の児童が満足していない状況であることも事実である。個々の児童について可能な範囲でその児童全体の分析もしておくことが必要である。
- ・教職員自己評価で、「学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」という設問に対し、100%の職員が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。教職員が学校経営方針を理解するとともに、日頃の教育実践や校務分掌を遂行する中で、学校教育目標の具現化に努めているからであると考える。
- ・P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動の実施については、「そう思う」「ややそう思う」が合計で100%ではあるが、「そう思う」が82.1%「ややそう思う」が28.6%となっている。昨年度同期の調査よりは、「そう思う」の割合が10.1ポイント上がっている。P→D→C→Aサイクルの流れが定着してきていると思われる。
- ・校内研究については、今後更に、ブロック(学年)ごとに具体的な研究が進む予定である。本年度集中的に取り組んでいる算数科の実践(朝学習のパワーアップタイム:算数科の継続的な基礎学習等も含む)を積極的に行うとともに、その成果を検証していく。
- ・今年度実施した小中合同の引取り訓練は、災害時の対応について理解をしてもらう良い機会となった。しかし、災害時等、学校からの引取り時は、原則徒歩で来校となっているが、実際に事案が生じたときには、車での来校も十分考えられるので対応・対策について事前に想定しておくことが必要となる。職員駐車場、校庭の開放、給食センター跡地の利用が考えられる。併せて、非常食等の備えについても確認・検討していくが望まれる。
- ・学校の防犯体制について、昨年度から防犯カメラも4台稼働している。こうしたハード面での充実と併せて、職員の防犯意識の高揚が必要である。又、保護者に対しても来校の際の職員室立ち寄りの徹底を求めるなどして、学校の安全体制について理解してもらうことに努めて欲しい。
- ・防犯については、マニュアルの確認の機会を一層もつとともに、「声かけ事案」「学校への不審者侵入」「通報訓練」等、想定を変えた防犯教室を関係機関(警察署)と連携する中で実施し、児童や職員の意識と技能の向上を図る。本年度は昨年度に引き続き2年生においても防犯教室を実施した。また、7月に不審者侵入を想定した防犯訓練を実施しているので今後につなげていきたい。
- ・通学路の安全確保については、継続的に点検を行っていき、地域との連携も図り

ながら児童の安全確保に努力していく必要がある。いまだに交通安全上課題である場所もあるので、引き続き見直しを行っていく。老人クラブの方々には、「高齢者と子どもの帰り道ふれあい事業」で日頃よりお世話になっており、感謝したい。

2 学習指導について

- ・全校児童の92.7%が「授業がとても楽しい」「楽しい」、98.3%が先生は「勉強をよく教えてくれる」「教えてくれる」と回答している。基礎的、基本的な内容の確実な定着のために、個に応じた指導の充実に努めている結果が数値に表れていると考えられる。
- ・「もし授業でわからないことがあったら、先生に聞けますか」という設問に対しては、「よく聞いている」が45.7%、「聞いている」が34.2%と回答した。今後も継続して「聞くことができる」教室環境をつくっていく必要がある。
- ・評価規準と評価方法を明確にした授業の実施については、「そう思う」「ややそう思う」がそれぞれ、40.7%と55.6%であった。また、「ややそう思わない」が3.7%であった。
- ・「あなたは、生き方教育（キャリア教育、進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」という設問については、「そう思う」39.3%、「ややそう思う」57.1%である。「そう思う」の割合が決して高いとは言えず、キャリア、進路について更なる共通理解、研究が必要である
- ・楽しい授業、わかる授業を目指し、今後とも個に応じた指導（繰り返し指導、グループ別指導、補充的な学習等）や体験的な学習（作業、実習、創作、実験）の充実に図っていくことが、なお一層学校には求められる。
- ・授業が分からないことによって「学校がつまらない」と考える児童もいるかもしれない。時間の確保、セキュリティ等の問題もあるが、対応策の例としてとして習熟度別クラスでの学習指導の展開、長期休業、放課後等の課外学習についても検討材料としてはどうか。
- ・学校が取り組んでいる朝学習（通称「パワーアップタイム」）は、子供の基礎学力の向上に関して功を奏している。
- ・敷島小学校は、いじめもなく（件数が少なく）心穏やかな子が多い印象である。学力面において成長を期待する意味で競争心を促す指導や環境も必要ではないかと思う。家庭学習については、保護者の協力は不可欠であるので今後も啓発を続けていくことが必要である。
- ・「分かる授業」の根本は基礎学力の定着による。分かる授業への努力が保護者からも信頼を得る方策。教師は、毎日の指導の積み重ねの中で子供の中にあるつまづきを取り除く努力を継続していくことが肝要である。

3 生徒指導について

- ・いじめ問題に関わり、児童理解に様々な角度から取り組み、その数を減らして欲しい。ここ数年継続的にQ-Uテストを行っているので、効果的に活用していきたい。
- ・直接的な暴力ではないにしても、「無視」などといったいじめに対して適切に対

処することが大切。学校では、担任教師 1 人が抱え込むことなく、いじめ防止対策推進法に係る組織として対応できる体制をとっている。今後も「いじめはこの学校でもあり得る」との認識に立って教職員間の情報共有に基づく未然防止・早期発見対応に力を入れて欲しい。

- ・携帯電話所持と関連して LINE 等によるいじめが心配である。現在学校内でのトラブルは見られないということであるが、学校外ではどうだろうか。家庭の問題でもあるが、学校からも安心・安全な使用法について子供だけでなく、保護者に対して啓発していく必要がある。今年度は、6 学年の子供と保護者向けの防犯講話を実施予定であるが、今後もこうした活動を継続していくことが必要である。
- ・ファミリーグループによる「ちびっ子祭」「ファミリータイム」は効果的な活動である。少子化による遊びの変化、仲間の減少を考えると、異年齢による集団活動は仲間づくりや思いやりの心、リーダーの育成に効果があると思える。今後も継続して欲しい。その中で、子供たちの自治の力をさらに育てて欲しい。
- ・あいさつ運動については、本校の大きな課題として職員間でも取り扱うようにしている。あいさつがしっかりできることの良さを日常的に機会を捉えて紹介していったり、児童会の取組も継続的に行って欲しい。

4 家庭、地域との連携について

- ・学校では、学校・学年・学級便り、ホームページ等を利用して、情報を発信しているが、学校が抱える課題、例えば学習指導上や生徒指導上の課題など、学校だけで抱え込まず、積極的に情報提供し、学校、家庭、地域が連携し解決していくことが大切である。
- ・地域の方との交流について、地域住民の立場から見ると、今回の評価以上に取り組んでいるという実感を持っている。お祭りを通して子供たちと交流を図る努力もしている。また、地区によっては公民館を開放して夏休み中の学習の場を子供たちに提供している。学校教育とはステージが違うが、地域の大人が子供とのふれあいについて努めている。こうした取組があいさつ運動にも良い影響を与えている。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）については、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を分担遂行する中で学校教育目標の具現化に努めていると言える。
- ・全校児童の多くが、学校が「とても楽しい」、「楽しい」と回答し、昨年と同様に学校生活を肯定的にとらえている。
- ・授業については、多くの児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、教師も基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のために、個に応じた指導を行っている。

II 特 徴

- ・本校の特色である「ファミリーグループによる活動（縦割り班活動）」の内容の工夫と計画的な取り組みは、全校集団づくりや学級集団づくりなど、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係づくりといった面で大きな効果を発揮している。
- ・合唱活動に積極的に取り組んでいる。ドレミファ集会を実施し、音楽の学習や学年の合唱活動の成果を発表するよい機会となっている。

III 今後の課題として意識して欲しいこと

- ・全体的にみて、アンケート結果は良好だと言えるので、全体と比べて評価が高くない項目に重点を絞って取り組むことが必要。問題点の解消策として、学校・保護者・地域が情報を共有していかなければならない。本校は保育所、幼稚園 20 園余りの子供が入学をしてくることもあり、保護者同士の横のつながりが弱い面が見られる。学級懇談会への参加やPTA活動への参加を奨励する中で学校として出来ることに取り組んでいく必要がある。
- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にさほど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくために、実践を工夫して行って欲しい。特に、P→D→C→Aサイクルを生かした学校評価、改善を繰り返しながら、より高次の教育を追求していただきたい。現在行っている、行事などの反省は、引き続いて、実施直後に反省をしていくとよい。
- ・学習指導及び生徒指導に関しては、教職員間での課題の共有を更に推し進め、児童個々にあったきめ細かな指導を引き続いて行って欲しい。
- ・児童や学校が抱える諸課題の解決に向け、今後も家庭や地域の人々との情報共有や教育活動への参画を求めていく必要がある。
- ・引き続き、危機管理、学校安全に積極的に努めて行って欲しい。
- ・学習のための学校全体の環境、教室環境づくりに継続的に努力して行って欲しい。

※特記事項 なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切 道之 印